

氏名(本籍地)	戸井田 克己(長野県)
学位の種類	博士(学術)
学位記番号	博乙第73号
学位授与年月日	平成25年3月16日
学位授与の要件	昭和女子大学学位規則第5条第2項該当
論文題目	青潮文化論—その地理学的・地理教育学的研究—

論文審査委員	(主査)	昭和女子大学教授	田畑 久夫
	(副査)	昭和女子大学教授	山本 暉久
		昭和女子大学教授	増田 勝彦
		関西大学教授	野間 晴雄

論文審査結果の要旨

本論文は、日本文化の特性を「青潮」(対馬海流)がもたらす「青潮文化」に求め、「青潮」の影響を受けている広範囲の海域に関して、フィールドサーヴェイを丹念に実施した意欲的な労作である。しかも、申請者の造詣が深い地理教育的な文脈から「青潮文化」を論じるという大変独創的な論文となっている。かように、フィールドサーヴェイを主体とする実証的研究を、地理教育との関係において把握しようとする研究態度は、社会教育の中でかならずしも地理教育が重視されていないという現状において、1つの方向性を示したものであるとして大いに評価できる。

本論文は序章および終章を含めた合計8章から構成されている。

序章では、「青潮」がもたらした日本の風土を多面的・多角的に理解し、その意義を地理教育の文脈から評価することであるという、本論文の目的が明確に示される。第1章では、学習指導要領や教科の地理カリキュラムが抱えている問題を指摘し、地理と歴史とが一層連携を深めて教育内容を構築させる必要があることを強調している。第2章では、本論文のキーワードである「青潮」の定義および詳細な先行研究の整理を行い、研究史上の位置づけをした。第3章では、「青潮文化」がみられる海域の自然環境の特性について論を展開した。地域の自然環境を重視する立場は、地域研究にみられる地理学的研究の特色といえる。

以上の第1章から第3章までの3章はいわば本論文の総論に該当するのに対して、第4章から第6章までは本論の各論ともいえる部分である。すなわち、第4章では、「青潮」海域にみられる養蜂、牧畑など、生業形態の特色について主としてフィールドサーヴェイに基づいて分検・検討を行っている。第5章では、対馬や種子島に残存している赤米習俗を取りあげ、儀礼を中心に「青潮文化」の特色を論じている。第6章では、魚醤や焼酎の製

造などを通して衣食住の内、食文化を中心に「青潮文化」について考察している。これら3章にみられるフィールドサーヴェイに基づく研究の結果、日本文化の特性は主として「青潮文化」によってもたらされた南方的および大陸的な文化要素を基調としつつ、北方的な文化要素も融合して形成されたことが明らかとなった。終章では、第4章から第6章までの研究成果をまとめるとともに、「青潮文化」を地理教育の立場から検討を行った。そして「青潮文化」の特徴を理解することは地理教育の活性化に大きく寄与するものであると結論づけた。

以上にみられるように本論文は、「青潮文化」を日本文化を形成する特性の1つと見做し、「青潮」海域でのフィールドサーヴェイを通して、「青潮文化」の特色を理解することが、地理教育の活性化につながるものであると位置づけた精力的な論文である。しかも各章は、『社会教育研究』、『E-Journal Geo』、『人文地理』、『民俗と文化』など著名な学術雑誌に掲載された合計13編の論文を中心に整理・改編されたものである。これらの諸論文は、それぞれの分野において高い評価を受けている。

本論文に対して審査委員会は規定に基づいて3回（3回目は一般公開）の審査を実施した。審査では申請者に対して内容の説明を求め、質疑応答を繰り返し行った。申請者は質疑応答に対して、自信をもって迅速かつ的確に対応した。審査過程を通して本論文は新たな学術的意義が大であることも確認できた。

ただし「青潮文化」のフィールドサーヴェイに関して、地域によってその精度に濃淡がみられること、「青潮文化」が地理教育に与える影響について説明が多少一般論に終わっていることなど更に発展あるいは検討すべき点も指摘された。とはいえ、これらの指摘は本研究の独自の価値を低めるものではない。

申請者は、本研究を長年にわたり一貫して地理学の特徴とでもいえる手堅い手法によって推進してきたこと。またかかる事例研究が地理教育の活性化に寄与するという新たな学術的貢献をしたことを踏まえて、審査員は全員一致して、本論文が博士（学術）を取得するにふさわしい内容であると認めるものである。